

“Heart to Heart”

心から心へ わちあう あたたかさ

第11巻 第1号 (No.32)

発行日 平成28年7月1日

武蔵野東教育センター所長
計野浩一郎

緩やかな時間をもちつつ子育てを

目次:	
緩やかな時間をもちつつ 子育てを	1
療育プログラムのように	2/3
コラム: 自閉症児の 発達研究から (3)	4
ご案内	4

4月からプログラムだけではなく、保護者勉強会、個人懇談など、保護者の方々と話をさせていただく機会が多くありました。それぞれに成長されたことを喜んでいただけている方もいれば、少し反抗期で困っている方など、悲喜こもごもな様子を直接・間接的に聞きすることができた3か月でした。その中で、場面によって子どもが示す言動に違いがあり、子どもの状態がよくつかめないということがありました。

幼少期における子どもたちは、環境によって違いがあるのが当たり前で、般化しにくく応用のききにくさがあります。この違いは、経験の少なさからくることがほとんどで、「まだ、学びきれていない」ということに尽きるのだと思いますが、子育て中の保護者の方々の心労はいかばかりかと推察いたします。

特に、不適切な言動があると、子育てに自信がなくなり自分を責めてしまいがちになるようです。子育ては永い時の流れで見ていかないと、成長の良い循環が生まれられません。「まっ、いいか。今はこれくらい。」という心のもちようが大切です。そうはいわれてもという声が聞こえてきそうですので、いくつかヒントにつながるであろうと思われることを書いてみます。

子どもたちの育ちは一様ではありませんし、一人ひとり違った成長の波があるものです。できているはずのことがある場面ではできないかったり、不適切な言動で困っていたりするとそのことだけに注意がいき、他の面での成長に気付きにくいものです。1日のスケジュールを見直し、関係を深める緩やかな時間を確保し、体験を

増やすための学びのチャンスを与えていってほしいと思います。

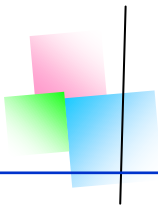
また、1か月に一回でよいので、子どもの成長記録をつけることをお勧めします。記録を書く際には、ご家族の意見も聞きながら項目(例: 基本的な生活習慣、学習、運動、お手伝い、言葉、対人関係など)を決めて書いていくと、数か月前の子どもの状況と今の状況では、多様な面での成長がいくつも見られるものです。場面によってできないのは、すでにどこでもできるようになる準備が整ってきている証拠です。あと少しの積み重ねとちよとしたきっかけをつかめさえすれば達成できるはずですよ。

さらに、大人も得意、不得意があります。得意なことは教えていてもイライラは少ないものですが、不得意なことを教えるのはイライラが募るものです。得意なことを中心において支援し、不得意なことは人に頼る。人に頼っていいんだと心を決めることで、心の負担や子育てに対する余裕ができます。社会資源の活用を考慮に入れた子育ては、場面による違いや不適切な言動が多く見られる時期には特に有効な手段の一つになると思います。そんな社会資源の一つとして、センターを活用していただければ幸甚です。

もうすぐ、夏休みになります。子どもたちとゆっくり向き合うにはとても良い時期だと思います。緩やかな時間の流れの中で、子どもたちが興味を示していることに目を向け、体験と一緒に楽しむという気持ちを大切に過ごしてください。お体を大切にお過ごしいただき、9月にお会いできることを楽しみにしています。



pixta.jp - 10424035



療育プログラムのようす 【各教室・言語・ラーニングプログラムの様子】

幼児絵画造形教室

6月、7月は「セロテープを使ってみよう」をテーマにしています。まずは、色がはっきりしているビニールテープを使って、貼る練習をしました。両手でしっかり持って、2つの箱にまたがるように貼ったら「によろ、によろへび」の出来上がり。その後は「たべちゃうよ！」「こんにちは！」とへび達のかわいいおしゃべりが始まりました。(本田)



へびさんのおしゃべり

言語プログラム

ボールや果物の模型などを使い、「○○ちょうだい」「どうぞ」「ありがとう」などのやりとりの練習をしています。初めは「いくよ、いいよ」や「どうぞ、ありがとう」と相手の言葉を含めて表現していたのが、少しずつ相手の言葉を聞いて答えたり、自分が言うべき言葉だけを話したりすることができるようになってきています。コミュニケーションの力がつくように今後も、いろんな方向から取り組んでいきたいと思っています。(計野ち)



果物を運んだり、ボールを投げたり

体育教室

小学生は跳び箱を行っています。今年度は、1・2年生は「両足で踏み切る」、3年生以上は「踏み切り板に乗る一歩手前のジャンプを大きくする」を目標にしています。毎回行う踏み切りの反復練習では、ソフトブロックに当たらないように踏み切り板に乗ることを意識することで、両足が揃えやすくなり、しっかり踏み切れる子どもたちが増えてきました。(鈴木)



ブロックに触らないように

SST教室

3・4年生は、友だちの発言から連想する言葉を返していく「○○といえば」ゲームを行っています。この活動は、相手の言葉から連想できる言葉をさがして伝えることはもちろんのこと、相手の発言に相槌が打てることをねらいとしています。意外な言葉が出た時など、子ども達から自然と「おー、なるほど」「それ、いいね」といった相槌が自然と出てくるようになってきています。(猪野)



「○○といえば」ゲーム

ダンス教室

ダンス教室では、より大きく動く感覚を身につけるために、声を出しながら全身で文字を表現する「あいうえお体操」を行っています。思いきって動作を大きくしてみると、意外にも恥ずかしさが減って体の動きがスムーズになってきます。大きな動作で自分の名前を表現することを目標に、楽しく活動しています。(新堂)



「あいうえお体操」の「え」

ラーニングプログラム

プリント学習以外にも、さまざまなことに取り組んでいます。例えば、机の上に数枚のカードを並べて、カードの絵と位置を記憶し、それを伏せた後に指さしながら何の絵が描かれているか答えるという課題があります。この課題の目的はワーキングメモリーを向上させることです。ワーキングメモリーは計算や試行錯誤能力などに影響を及ぼすと考えられます。(大澤)



よく見て覚えて

幼児体育教室

5・6月を通してポックリに取り組んでいます。初めはすぐに転んでしまうことが多かった子どもたちも、今ではマットやフープなどの障害物の上を歩いたりまたいだりができるようになりました。繰り返しの練習によって上肢と下肢の協応運動が上達した結果です。廊下や屋上をポックリで歩いている姿を見ると、成長を感じます。(久留)



よいしょっ！

コンピュータ教室

デジタルカメラで友だちの写真を撮る練習をしています。「○○君、写真を撮りたいからこっちに来て」「もう少し右に動いて、撮るよー！」などと、友だちに的確に声をかけられるようになることもこの活動のねらいです。初めのうちは距離感がつかめませんでしたが、回を重ねるうちに上手に撮れるようになってきました。撮った写真は各自でコンピュータに取り込み、大切に保存してあります。(吉田)



2ショットを撮ろう！



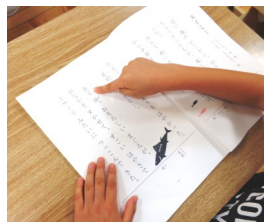
【スクールプログラムの様子】

幼児 少しずつ夏の気配を感じるようになりました。今は、「夏」をテーマに「あさがお」「かに」「すいか」「くじら」などの製作をしています。学年ごとにシールを貼ったり、糊を貼ったり、はさみやクレヨンを使ったりして学年に応じた課題に取り組みました。時々思うのですが、描いた絵をよく見るとなぜだか本人に似ています。不思議ですね。(本田)



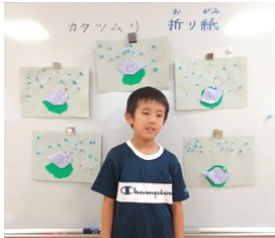
糊でぺったん！

2年生 国語では、物語「スイミー」の学習をしています。映像や紙芝居、黒板教材を通して物語のイメージを膨らませて読解問題に取り組んでいます。音読では、担当者や友だちの読んでいる文章を指で追う練習をしています。音読を聞く、指で文字を追いついで文章を見るという聴覚・視覚の両方から情報を得ることで理解が深まることを期待しています。(宮川)



集中して聞こう！

4年生 6月に入り、雨の季節となりました。今年は雨の量が少ないようですが、季節の作品を折り紙、粘土、色鉛筆を使っての作品作りを行っています。今回は「カタツムリ」に挑戦しました。1週目には粘土で製作、そして翌週には折り紙で作品にしました。折り方の説明を真剣に聞きながら、作品を完成させることができました。(藤本)



カタツムリの完成

6年生 図工の折り紙では、同じ形を複数枚折り、それぞれを貼り合わせて一つの作品に仕上げています。6月は季節にちなんでカタツムリを作りました。何度も繰り返し練習し、最終的には4分の1サイズの折り紙に挑戦。小さなカタツムリを作ることができました。次回は、算数で学ぶ「立方体」に挑戦です。平面から立体へ、教科学習と結びつけながら楽しく学んでいきます。(吉田)



折り紙練習

1年生 音楽で「鍵盤ハーモニカ」の練習をはじめました。はじめて触る鍵盤ハーモニカに子どもたちの心はドキドキ。最初にみんなと合わせて音を出してみました。思ったよりも音がでてびっくりした子もいました。次に、低いドから高いドまでの音階練習。緊張しながら一つずつ鍵盤を動かしていました。音楽をどんどん好きになってほしいと思います。(宮下)



みんなで合わせてふいてみよう

3年生 国語で『漢字のへんとつくり』の学習を行いました。3年生になると、低学年に比べて新しく習う漢字が増えてきます。たくさんの漢字の中から共通する「へん」や「つくり」を知ること、漢字の意味をとらえやすくなります。子どもたちは、「きへん」「さんずい」などの部分に注目して、色々な漢字を仲間ごとに分けることができました。(諸橋)



漢字のへんとつくり

5年生 図工で切り絵に挑戦しています。さまざまな動物や植物の形に色紙を切り、それらを組み合わせて台紙に貼り、作品に仕上げています。動物の手足や植物の茎や葉などの細かい部分を切るときは慎重なはさみの扱いが求められるため、手先の巧緻性を高めるよい練習になっていると思います。みんなとても集中して取り組んでいました。(大澤)



切り絵 クワガタとカブトムシ

中学生 日本の地理について学習しています。都道府県名や地方名、県庁所在地を覚えることはもちろん、各地の特産品や観光名所などについても写真や映像を通して学んでいます。子どもたちは「同じ日本でも、北と南では採れる野菜や果物が違うのはどうしてなんだろう？」などと疑問を持ち、調べ、解決していくことで、各地の特色について多くのことを学んでいます。(吉田)



動画を見ながら学習中



心を理解する力の発達とことば

藤野 博 (東京学芸大学教授)

自閉症の人たちは「心の理論」をもたないとされています。心の理論とは1回目にもふれましたが、人の心を理解する力のことです。心の理論の有無を調べるテスト課題があります。パペットやアニメーションで次のようなストーリーを見せます。「Aさんはボールを箱に入れて部屋を出て行きました。そこにBさんが来て、ボールを箱からバッグに入れ換えました。」そして「部屋に戻ってきたAさんはボールをどこに探すでしょう?」と質問します。この問題に正しく答えるためには、自分が知っている事実(ボールはバッグの中にある)からではなく、Aさんの視点(ボールは箱の中にある)に立って考えることができればなりません。このような心の理論課題は通常の発達の子どもで

は4歳くらいになると解けることがわかっています。一方、自閉症の子どもの場合、知的な遅れがなくとも正答するのが難しく、相手の視点(箱)からでなく自分の視点(バッグ)で答えてしまうことが多くの研究で明らかになりました。

しかし、自閉症の子どもでも正しく答えられる場合があることもわかってきました。そして、それに関わっているのはことばの力である可能性が見えてきました。ことばの力が9歳レベルを超えると、自閉症があっても心の理論課題を解けることが多くなります。つまり、小学3年生頃になると、ことばを通して考えることで人の心に気づく力が伸びるのです。そのようにテスト場面でできるように

なっても、日常生活場面で、人から促されず自分から人の心に気づくことは依然として難しいことも事実です。ですが、言われて考えればわかるようになる、というのは大きな進歩だと思います。ことばを通して、社会にアクセスし参加する可能性が広がるからです。このような研究の知見は、小説や物語、漫画など人の心の状態や心の動きが表現された作品に親しむことは、心を理解する力の成長を促す可能性を示唆するものと考えられます。



このコラムは4回シリーズでお届けしています。

保護者勉強会のご案内

当センターのスタッフが受講者の保護者の皆様に以下の日程でお話しさせていただきます。

第2回 9月15日(木) 10時～12時

大澤徹也 「発達検査の生かし方」
本田孝子 「家庭で楽しめる造形活動」

第3回 12月1日(木) 10時～12時

諸橋 茜 「自閉症スペクトラムのことばとコミュニケーション-脳機能の視点を中心に-」
鈴木裕磨 「子どもの運動機能の発達」

※実技講習が含まれますので、動きやすい服装と上履きで参加してください。

武蔵野東教育センター

〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-10

電話 0422-53-8585 FAX 0422-53-8595

Email: education-center@musashino-higashi.org

ホームページもご覧ください

<http://www.musashino-higashi.org>



セミナーのご案内

今年度後半のセミナーを以下の通り実施いたします。ご希望の方はお早めにお申し込みください。

II. 平成28年10月13日(木) 10時～12時

「インクルーシブ教育システム構築に向けた特別支援教育の充実」
笹森 洋樹 (独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所)

III. 平成29年2月24日(金) 10時～12時

「就労支援の実際 ～卒業後の生活をイメージする～」

市村 たづ子 (昭島市障害者就労支援センターくじら)

